

## ご挨拶



量子イノベーションイニシアティブ協議会

会長 **小柴満信**

(東京大学総長室アドバイザー)  
(Cdots合同会社 共同創業者)

本協議会は、発足以来5年間で参加メンバーがアカデミアを含め20団体に拡大し、参加企業は金融、化学、電気、情報、エネルギーなど多岐にわたる分野に広がり、我が国において量子コンピューターを実践活用する唯一の産学連携拠点として大きな成長を遂げました。

また、量子コンピューターのハードウェアについては、2025年秋に世界最高水準の量子チップ（米国IBM社製）にアップグレードされ、産業応用に向けた研究開発環境がさらに充実いたしました。

2024年には、IBM社を含む複数の海外企業から、誤り訂正量子コンピューターを2020年代後半に提供すると発表があり、いよいよ量子コンピューターの実用化が目前に迫ってまいりました。「Politics meets Technology」の時代において、最先端計算技術・資源にアクセスし、使いこなすことは国家および企業の競争力の源泉となります。参加企業の皆さまが、本協議会を活用し、世界最高水準の量子コンピューターを自在に使いこなす企業へと成長されるよう、微力ながらご支援してまいりたいと考えております。

本協議会および量子コンピューターの社会実装にご興味のある方は、ぜひ本協議会事務局までご一報いただけますと幸いです。

## QIIの会員区分

### 正会員 共同研究等

- IBM Quantumへのアクセス権保証
- 大学教員等による共同研究  
(本学教員のアクセス権有)
- 幹事会への参加
- IBM Quantum Network Memberに登録  
※協賛事業の特典有

### 準会員

- 準会員の資格は3種類あり、グレードアップも可能です。

#### 協賛事業

##### 特典

- 1 総会への参加
- 2 セミナー・シンポジウム等の聴講
- 3 学術指導、共同研究に向けた助言・ガイダンス
- 4 広報活動  
QIIのホームページ掲載。  
QII協議会の活動に賛同していることをPRすることができます。

#### コンサル対応

##### 特典

- 1 東京大学、慶應義塾大学にてIBM Quantum利用の見学が可能
- 2 大学教員等によるコンサル  
※協賛事業の特典有

#### Grade Up

#### 共同研究 (アクセス権無)

##### 特典

- 東京大学、慶應義塾大学の大学教員等によるIBM Quantumを利用した共同研究の実施（アカウント・ID無）  
※協賛事業の特典有

## QIIへのご参加方法

- ❖ 東京大学と共同研究契約もしくは協賛申込となります（QII協定書締結）
- ❖ 共同研究費、協賛金等については別途相談



お問い合わせ

東京大学産学協創部協創課

電話：03-5841-1927

(電話対応時間：9:30~12:00、13:00~17:00 土日祝除く)

E-mail：itl.adm@gs.mail.u-tokyo.ac.jp

QII ウェブサイト



# 量子イノベーション イニシアティブ協議会

QII

## ご参加のご案内



量子イノベーションイニシアティブ協議会

# QIIのご紹介

## QIIの 目的

本協議会は、量子コンピューターの社会実装を世界に先駆けて実現するため、当該技術に関わる産学官の協力を促進し、相互の情報交換を密にすることをもって、我が国全体のレベルアップと実現の加速化を図る。

## QIIの 活動

- (1) 量子計算ソフトウェア・アプリケーションに関する情報交換
- (2) 量子コンピューターに我が国のものづくり技術を適用し飛躍的性能向上を図るための量子ハードウェアに関する情報交換、及び次世代量子コンピューターの開発に結び付く基礎科学技術に関する情報交換

## QII活動実績

### QIIセミナー

- 2～3か月ごとに開催
- 研究成果報告や量子にかかわる最新情報の提供を行い、意見交換・情報交換を行う。

### QIIシンポジウム

- 2～3年ごとに開催
- 第2回を2025年5月16日(13:30～17:40)開催(一般公開)
- 基調講演、パネルディスカッション、会員外からも量子分野の研究者が参加し、研究成果の発表や今後の量子技術の発展・産業化への貢献について議論を行った。

### QII総会・幹事会

- 総会(年1回以上)、幹事会(年2回以上)開催

## 実用的な量子コンピューティングの時代はすぐそこに

近年量子コンピューティングの技術は加速度的に進歩しています。IBMは、実機ユーザーと密に連携することで、2026年に現実的な課題において量子コンピューターが従来型スーパーコンピューターに対して優れた計算能力を獲得し、2028年には誤り耐性を持つ量子コンピューターの実証を目指すとして発表しています。夢物語であった量子コンピューターの時代はすでに現実のものになりつつあります。



## 社会変革をもたらす量子技術

量子コンピューターが生み出す経済価値は社会変革をもたらす規模になると予測されています。各国政府・地方自治体や企業の投資は旺盛で、世界中で新規プレイヤーの参加が相次いでいます。その応用は多岐に渡り、金融、化学、情報、製造などの分野において研究が進められています。

### 参加企業・大学等(QII会員)(2025年12月現在 50音順)

- 東京大学 ■ 慶應義塾大学 ■ 味の素 ■ サントリーホールディングス
- JSR ■ ソフトバンク ■ DIC ■ 東京農工大学 ■ 東芝
- TOPPANデジタル ■ トヨタ自動車 ■ 日本アイ・ビー・エム
- 日立製作所 ■ みずほフィナンシャルグループ ■ 三井住友信託銀行
- 三菱ケミカル ■ 三菱UFJフィナンシャル・グループ ■ 村田製作所
- 理化学研究所 ■ レゾナック

※「IBM Quantum System One」をかわさき新産業創造センター(KBIC)に設置

表紙画像他 / Credit: IBM Research

## ご挨拶



東京大学  
総長 藤井輝夫

量子コンピューターを含む量子技術を活用して、経済発展と社会的課題の解決を両立するSociety5.0の実現を目指すためには、多様なセクター間の相互の連携をより一層進めることが重要です。

本協議会は、産業界とアカデミアが情報共有を密に行いながら、量子技術研究そのものにとどまらず、具体的な社会実装を推進し、我が国の量子技術応用の高度化を図ることを目的としています。同時に、この技術がもたらしうる未来社会へのビジョンを参加企業や大学が、共に描いていくことを目指します。

また、変化の早い量子技術分野において世界から取り残されないためには、量子コンピューターに関わる要素・システムの開発だけでなく、次世代人材の育成が不可欠です。本学では学部段階からハイレベルな量子教育を導入しておりますが、本協議会において産業界の皆様と連携しながら次世代人材を育成していくことが、世界に先駆けた量子コンピューター技術の社会実装促進に繋がるものと確信しております。